国語

出題の傾向

昨年度と同じく、1～3の大問３つからの出題となりました。1の現代文は例年通り、評論文から漢字・語句の意味・品詞の識別・内容把握などを出題しました。また、2では「新しい学力観に基づく」問題を、3の古文は、説話から語句の意味・内容把握などを、これも例年通り難解な言葉には語注や現代語訳で補助をして出題しました。各問題の配点は、現代文５０点、「新しい学力観に基づく」問題２５点、古文２５点となっています。では、以下に本年度の入試について詳しく解説します。

2025 今年度の出題と解説

1の現代文は、「『やりがいのある仕事』という幻想」（森博嗣）からの出題でした。本文で「やりがい」とは「人から与えられるものではない。どこかに既にあるものでもない。自分で作るもの、育てるものだ。」とあり、ぜひ受験生には一度読んで欲しい文章です。また、設問自体もこれまでと同じ傾向で出題していますので、しっかりと練習を積んだ受験生にとっては、スムーズに取り組める問題だったようです。

問１　漢字の問題

中学校までに学習した漢字の書き・読みから出題していますので、学校の授業などで漢字の学習をしっかりと積んでください。特に㋐「洗練」の正解率が低かったので、書き取りの問題の対策が必要だと感じました。誤答は「洗」を「専」と書いている解答が多かったです。日頃の勉強から、正確に読み書きをする学習を心がけてください。また、漢字を読み書きする力は、問題集などで鍛えることはもちろん大切ですが、読書や新聞、ネット配信のニュースなど、日常生活の中で活字を読むことで鍛えられる場面も非常に多いです。日頃から、意識的に言葉に触れる機会を増やしてみてください。

問２　国文法の問題（品詞の識別）

本校で毎年必ず出題される問題だけに、対策を立てて勉強してほしいと思います。この問題は、対策をしてきた生徒とそうでない生徒の差が大きく表れます。ⓐ は、「きっと」は下の動詞の「信じている」を修飾しているので　オ　副詞。ⓑ「そんな」は下の「若者」という名詞を修飾しているので　カ　連体詞。ⓒ「ない」は「ぬ」という語に置き換えることができないので　イ　形容詞。形容詞の「ない」と助動詞の「ない」の見分け方も本校の入試問題でよく出題されますので、この機会に勉強をしてください。ⓓ「やりがい」は、ものごとの一般的な名前を表しているので　エ　名詞。ⓔ「遠ざけ」は終止形が「遠ざける」（遠くの方にする）という行動を表しているので　ア　動詞。

問３　空欄補充の問題（選択）

空欄に、適切な接続詞を入れる問題です。それぞれの言葉の持つ働きと、空欄の前後の文脈を読み取る力が必要です。

ア　したがって･･･前の事から当然の結果として後のことが起こる役割　　イ　また･･･①前にあったことがもう一度繰り返される役割　②他のことと同じ状態にある役割　ウ　なぜなら･･･前の事柄の理由を説明する役割　　エ　しかし･･･前の内容と後の内容を反対にする役割　　オ　たとえば･･･前の内容をさらに具体的にする役割

接続詞は他にもありますが、まずはア～オの言葉の働きを理解し、問題を解いてください。

問５　内容把握の問題（抜き出し）

解答になる部分が本文の後半にあり、探すのに苦労する問題でした。

【解法の手順】

①　設問で問われていることを確認する。「何故、（やりがいは）見つからないのだろう」と理由を聞かれています。

②　設問で与えられている条件をよく見る。「～本来［　　］なのに、既にどこかに存在していると勘違いしているから。」とあるので、「やりがいの本来のあり方」を聞かれています。

③　本文から②に当たる内容を探して読む。本文の後半に「人生のやりがい、人生の楽しみというものは人から与えられるものではない。どこかに既にあるものでもない。自分で作るもの、育てるものだ。」とあるので、この部分が②の［　　］に入る所だとわかります。

国語は解答が必ずしも設問の近くに存在するとは限りません。答えを探しながら我慢をして読むという訓練も必要になります。入試問題だけではなく、普段の学習でも、このような解法で答えを出す訓練をしておきましょう。

問６　内容把握の問題（記述）

【解法の手順】

①　設問で問われていることを確認する。「手応えのない手順とは何か」を聞かれています。

②　設問で与えられている条件をよく見る。条件は２つ。⑴「手応えのある仕事」との違いを書く。　⑵「～ではなく」という言葉を使う。

③　本文から②に当たる内容を探す。「手応えのない手順」は直前の「最初からコンスタントに作業を進め、余裕を持って終わる」という内容だとすぐにわかります。「手応えのある仕事」は傍線部④の８行前に「手応えのある仕事というのは、簡単に終わらない、ちょっとした苦労がある仕事」とありますので、この2点を含めて記述をします。

※ 注意点

・「手応えのない手順とは何か」を聞かれているので、解答の形は「（手応えのある仕事）ではなく（手応えのない手

順）」となり、記述の後半は「手応えのない手順」を記述する必要があります。
・「～ではなく」という言葉を使って記述しないといけません。
設問を最後まで読んでいなかったのでしょうか。内容は完璧なのに「ではなく」を使用していないので　×　であったり、「コンスタント」を「コンス『テ』ント」や「コン『タクト』」といったミスも目立ちました。本文と設問をよく読んで解答することが大切です。

問８　内容把握の問題（抜き出し）
【解法の手順】
①　設問で問われていることを確認する。「本人の思い込み」とはどのようなものかを聞かれています。
②　設問で与えられている条件をよく見る。「子供のときと同様の、［　　］という考え」とあるので、解答する内容は「子供の時と同じ『思い込み』」だとわかります。
③　傍線部の周りをよく見る。直前を見ると「その背負っている制約というのは」とあるので「子供の背負っている制約」が思い込みの内容に当たります。
④　本文から③に当たる内容を探す。ここから４行前に「子供のときには、経済力がないし、場所も自由も使えないし、時間だって制約があるだろう。」とあるので、この部分を解答にします。

問９　会話文の問題　内容合致（○×）
本文中の内容とそれぞれの人の意見が合致しているかを確認します。本文の内容をしっかり理解できていれば、それほど難しい問題ではなかったと思います。正答率が低かったのはＣ君の発言です。確かに本文では「子供の頃にせっかく見つけたやりがいや楽しみを大人や友人から妨害されることもある」とありますが、Ｃ君の発言のように「やりがいは、むしろ好奇心が旺盛な子供の頃の方が見つけやすい」とは言えないので、　×　となります。

［2］の問題は、「思考力・判断力・表現力を問う問題」です。この問題は複数の資料から設問に必要な情報を選び、適切な解答を作り出すという内容になっています。また、これからの学習で最も重要となる、論理的思考能力をはかる問題でもあります。特にこの問題は生徒の発言がヒントになりますので、空欄の前後の発言に注意しながら、ヒントを探しましょう。

問２⑵　論理的読解の問題（選択）
［Ⅱ］は直前の「『紙の新聞を読む（電子版はほぼ読まない）』と『どちらかといえば紙の新聞を読むことが多い』の合計は」とあるため、【資料2】の「39．4%」と「12．5%」を合計した「51．9%」（5割）となり、選択肢は　ア　イのどちらかになります。次に［Ⅲ］は「『電子版の新聞を読む（紙版はほぼ読まない）』と、『どちらかといえば電子版の新聞を読むことが多い』の合計は」とあり、先と同じ考えをすると「7．2%」と「6．8%」を合計した「14．0%」（1割強）となるので、　イ　が正解となります。グラフを見間違えないように気をつけましょう。

問４　表現力の問題（記述）
【解法の手順】
①　Ｄさんは「なぜ新聞が選ばれないか」を知りたがっています。
②　でも新聞が有料コンテンツであるため、直前のＣさんの言う「今はみんなスマホやテレビ（＝無料）を持っているから、新聞じゃなくても知りたいと思ったことの大抵は他で調べられるのよね。」という意見に対して、同じ条件でないと比較できないとＤさんは考えています。
③　よってＤさんは「新聞を無料にする」または「新聞以外も同額の有料コンテンツにする」というアンケートがあれば、純粋に新聞が選ばれるかどうかを調べることができると考えています。
※ 注意点
「お金を払ってまで新聞を読むか」という解答も多かったですが、これは直前のＣさんの内容を踏まえた発言ではないため、誤答となります。空欄の前後だけではなく会話の内容を把握する練習も普段から練習をしましょう。

問５　情報処理・論理的読解の問題（選択）
今回は不適当なものを選ぶ問題でした。つまり他の選択肢はグラフから読み取ることができるということです。その視点で選択肢を見ると　エ　「二十代までの世代はそれ以上の世代に比べ、ネットの利用に時間を割いてニュースを視聴している」という部分がおかしいと気づきます。【資料６】は「情報通信メディアの利用時間」なので、「メディアを使って何を見ているか」までは読み取ることができません。よって　エ　が正解となります。先入観で選択肢を見てしまうと正解が見つけられなくなります。気をつけましょう。

［3］の「古文」の問題は、鎌倉時代に書かれた説話の「宇治拾遺物語」からの出題でした。全体的に話の流れを理解することが難しかった人も多かったようです。対策としては現代語訳を参考にしつつ、「誰が」「どんなことをした」のかを丁寧に読めば、得点できたと思います。まずは、現代語訳を載せておきます。

【現代語訳】
これも今は昔、多田満仲の郎等に猛々しくて乱暴な奴がいた。動物たちを射殺すのを仕事にしていた。野に出て、山に入っては鹿を狩り鳥を獲って、少しも良い行いをすることがない。（郎等が）あるとき（外へ）出て狩りをし、馬を走らせ鹿を追っていた。矢をつがえ、弓を引いて、鹿を追うままに（馬を）走らせて行く途中にお寺があった。その前を通り過ぎる際に、ちらりと見れば、中にお地蔵様が立っていらっしゃった。（郎等は）左手で弓を取り、右手で笠を脱いで、ちょっとだけお地蔵様へ帰依する（神仏にすがる）心を示してかけ過ぎて行った。
その後、（郎等は）しばらくしないうちに病気になり、何日も苦しんで、命が絶えた。（そして）冥途へ行き、閻魔の所へ呼びつけられた。（その様子を）見れば、多くの罪人が、罪の軽さや重さに応じて責め苦を受け、きびしく罰せられている。（郎等は）自分のこれまでに重ねた罪の深さを思

い続けると、涙をこらえきれなかった。

こうしているうちに、一人の僧が出てきて、おっしゃるに「お前を助けようと思うのだ。早く人間界に帰り、罪を懺悔するのが良い」ということである。（郎等は）僧に問い申し上げて言うには、「これはどなたが、このようにおっしゃるのですか」と。僧は答えなさるに、「私はお前が鹿を追って寺の前を過ぎた時に、寺の中にいてお前に見られた地蔵菩薩である。お前の罪は深く重いが、ちょっとだけでも我に神仏にすがろうとする気持ちを起こした功績として、私は今、お前を助けようとするのだ」とおっしゃると思うと（郎等は）よみがえった後は、殺生をやめ、地蔵菩薩へお仕えしたという。

問１　主語把握の問題（選択）

ⓒのみが正答率が低かったです。「鹿を追って寺の前を過ぎた」人物を答える問題でした。前半の郎等が、鹿を追っていた場面であることが理解できていれば答えることができました。この問題も設問の条件に「同じ記号を二度以上用いても良い」とあることを見逃した受験生が多かったように思います。

問２　内容把握の問題（記述）

【解法の手順】

①　設問で問われていることを確認する。「涙をこらえきれなかった」理由を聞かれています。

②　傍線部の周りをよく見る。直前を見ると「私の一生の罪の深さを思うと」とあるので「郎党が過去の行為（殺生を行ってきたこと）を振り返っている」ということがわかります。

④　傍線部の周りをよく見る。さらに前を見ると「多くの罪人が罪の軽さ重さによって責め苦を受け、きびしく罰せられている」とあるので、「目の前の罪人を見て自分の罪の深さがわかり、自分も同じようになると思った」という内容を書くことができます。

※ 注意点

採点基準として郎等の「生前の罪深さ」と「多くの罪人と同じ目にあう」という２点を書くことが必要です。その視点から例えば、「多くの罪人が罰せられるのを見て、自分の生前の悪行を思い出し、反省したから」も正解です。ただし、別解で答える際には「反省した」「後悔した」などの心情を記述する必要があります。

問５　内容把握の問題（抜き出し）

本入試で一番正答率が低かった問題です。［　X　］の前後を見ると、「ちょっとだけ［　X　］を示して過ぎて行った」とあります。本文の後半には「ちょっとだけ私に帰依の心を起こした功績として」とあり、「いささか」という言葉に共通点があります。また本文の「いささか［　X　］をいたして」という表現から［　X　］には名詞が入るとわかります。その２点から　帰依の心　を解答とすることができます。五字以内という字数だけで解答を考えずに、本文の内容を理解するようにしましょう。

問７　内容把握の問題（選択）

「教訓」とは「過去の経験や出来事から得られる学びや反省」ということです。つまりこの話から読んだ人たちは「どのようなことを学ぶのか」ということを聞いています。「生前は殺生をしていたが、ふと地蔵を拝んだおかげで死後は責め苦を受けなくてもよくなった」という内容がわかっていれば、　ア　を選ぶことができるでしょう。

対策とアドバイス

採点をしていて非常に残念だったのは「問題文をしっかり読んでいない人が多い」ということです。「〇〇という言葉を使って」や「記号は二度以上用いても良い」などの条件を読まずに失点をしている人が多かったように思います。また[1]の品詞の問題も全問正答率がほぼ50%台と低いです。普段から「問題文もしっかり読む」と意識することや中学国文法の復習（本校の入試説明会では国文法の勉強ポイントについても説明をしています）が必要だと感じました。

また現代文の問題は、設問から、「何を答えれば良いのか」ということを読み取った上で、本文をじっくり読めば解答が導けるようになっています。練習の際には、たまたま正解した、間違ったということで一喜一憂するのではなく、自分でしっかりと根拠を持って解答をし、解答に至る道筋が本当に合っていたのか、しっかりと解説を読んで理解しましょう。時間がかかるかもしれませんが、そうすることで本当の実力がついてきます。また、日頃から読書の機会を持つことで、語彙力を増やし、文のつながりや構造を理解する力＝「読解力」を養うように心がけましょう。来年度入試も、「漢字・口語文法（品詞の識別）・語句の意味」など基本的な言葉の知識を中心に出題する予定です。本校独自の問題については、必ず得点できるように対策を立てることが大切ですが、全体的には、中学校の授業で学習したことを正確に身に付けることを心掛け、問題を一つでも多く解くようにしてください。また、国語の学習では日頃から常に文章（活字）に触れることが一番です。読書を通じてしっかりとした読解力をつけ、問題演習を通して、本文の中から答えを探し出す訓練を積んでください。また、学校によっては古文への取り組みが少ない学校もあるかも知れませんが、本校の古文の問題は、現代語訳での補助も多く、主に「文脈を判断する」問題になっていますので、日頃から古文に触れておくだけでも充分な対策になります。市販の問題集などを使って、文中の分かる言葉をつなげて、話の大筋をつかまえる練習を積んでおくと良いでしょう。思考力・判断力・表現力の問題については、今年と同様に、それほど特異な出題はしませんが、やはり何も対策をせずに本番を迎えるのは不安だと思います。学校などでも同じような問題に取り組む機会があると思いますし、近年では全国の公立高校で同様の問題が多く出題されています。学校の授業での演習の機会を大切にし、公立高校の過去問題を調べたりして、地道に練習を重ねてほしいと思います。また、入試過去問解説会（12月）では、模擬問題（新しい学力観に基づく問題）の解説を予定しています。本校で実際の問題に触れてみるのも貴重な経験になりますので、是非足を運んでください。最後に、国語力は、全ての教科の基礎と言われています。国語の力が伸びれば、他の教科にも必ず良い影響をもたらすので、しっかり勉強して頑張ってください。